

紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取掲ケ裁判致スヘキ事

第十四條 第十一條ニ掲クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取掲ケ裁判可致事  
第十五條 甲乙等ノ号ヲ各帳ニ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊ニ後證トナルヘキモノハ甲乙ニ印紙貼用致スヘキ事

第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査受ケ候ニ又ハ出先ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候ニ便宜ニ任スヘキ事

第十七條 最初帳簿附込見積金高百圓以内ト見込印紙貼用セス官員ノ調査ヲ受ケサル者漸々附込相嵩ニ誤テ百圓以上ニ及ビ候者ハ附込金高二百圓以内ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上

七年百三十七号布告  
○印追加

其管轄廳ニ差出シ調査ヲ受ケ候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條 印紙多數用フル節證書面狹隘ニテ貼用シガタキ分ハ證書裏面ニ貼用致シ第二号圖ノ通調印致ヘキ事

○一委任狀ノ儀ハ都ヲ界紙ヲ相用フヘキ事

○第八十二号布告明治七年七月廿九日發  
今般證券印稅規則布告候ニ付印紙界紙共更定候得共當分ノ内從前ノ印紙界紙ニ取交相用不苦候條此旨布告候事

○第百五十五号布告明治九年十二月十六日發  
明治七年(七月)第八十二号ヲ以テ府縣ニ於テ製造ノ舊證券界紙取交相用不苦旨布告及ヒ置候處右舊證券界紙ノ儀ハ本年十二月三十一日限廢止候條此旨布告候事

○第廿五章印紙界紙○第二節證券印稅規則

大藏省甲第八号布達明治八年三月十七日發

人民財產ノ受授并交際上相用候諸帳簿ノ儀ハ證券印稅規則ノ通其類ニ應シタル印紙ヲ一帳毎ニ類別ヲ以貼用可致等ニ候トモ若シ一帳中ニ第一類第二類ヲ取交付込度モノハ其合計見積金高ニ應シタル第二類印紙ヲ別紙圖式ノ通貼用致置候上ハ一帳簿ニ雜記候トモ不苦候條此旨布達候事

但第三類帳簿ニ第一類第二類ヲ雜記致シ度節ハ第三類ノ印紙貼用ノ外本文ニ準シ第二類ノ印紙ヲ並ニ貼用可致候尤一類而已ヲ雜記致ス節ハ第一類ノ印紙ヲ並ニ貼用可致事

○第八十三号布告明治八年五月十二日發

明治六年六月一日以後同七年八月三十一日以前ニ取結ヒタル諸約定ニテ印紙ヲ貼用セズ或ハ界紙ヲ用ヒサレ證書ヲ取置カ又ハ附込ノ諸

帳簿ニ押印ヲ受ケサレ者ハ聽訟裁判上無據事故ノ有無ニ因リ採上

ルト採上ケサルトノ別有之候處七年<sup>七月</sup>第八十一号布告ヲ以テ證券印

稅規則改定相成候ニ付テハ六年六月一日以後七年八月三十一日以前

ノ分ニ雖モ右規則ニ準シ證書受取主或ハ帳簿主ニ於テ舊規則相當ノ印紙ヲ自分ニテ貼用押印ノ上訴出ルキハ取上裁判ニ及ヒ候條此旨布

告候事

○第二百十号布告明治八年七月廿二日發

諸商業又ハ諸職業ニテ各廳ヨリ用向被申付候者ヨリ差出候受書類ノ内其事柄受負并約定筋ニ相涉リ候モノハ自今證券印稅規則第二則第一條第二類諸證書中諸受負證文及ヒ金錢約定證文ニ照シ證券印紙界紙可相用此旨布告候事

但本文同様ノ受書ニテ金高記載セサル分ハ同規則中第三類金

○第廿五章印紙界紙(第二節證券印稅規則)

高記載無之約定證書ニ準テ證券界紙可相用事

司法省丁第四十五号達拔書明治十一年十二月廿八日發

甲号東京上等裁判所ニ下問 明治十一年十月十七日

職業ニ管スル金錢受取書ノ義ハ十圓以上印紙ヲ貼用スヘキ規則モ有之候處譬ヘハ

今茲ニ甲介ナル者アリテ乙造ヨリ二千圓ノ負債ヲ有ス或日該金高ノ内千圓ヲ返却シ受取書ヲ取置ク 〔印紙貼用ナシ〕 後又五百圓ヲ返却ス此時

乙造ハ最前ノ受取ノ金高ヲ合併シ都合千五百圓ノ受取書ヲ 〔印紙貼用ス〕 甲介ニ渡シ乙造ハ甲介ヨリ最前千圓受取書ノ返リ證書ヲ 〔印紙貼用ナシ〕 取

置ノ爾後乙造ハ甲介ニ係リ殘金五百圓ノ延滞ヲ請求ス然ル處被告甲介ハ却テ五百圓ノ渡過アレテ以テ之ヲ取返サルトノ答辨ヲナシ千五百圓ノ受取書ト 〔印紙貼用アリ〕 自ラ印紙貼用消印セシ處ノ千圓ノ受取

書 〔最前印紙貼用ナシ分〕

トテ確証トシテ裁判所ヘ呈供ス原告乙造ハ其千圓ノ證書ヲ消サンカ爲メ當時ノ返リ證書ヲ 〔印紙貼用ナシ〕 捧クト雖モ被告甲

介ハ該證書ハ證券印稅規則第二則第一條第一類第一項ニ觸ル、チ以テ裁判上無効ナル旨ヲ主張ス

右ノ如キ場合ニハ是迄其裁判所ニ於テ何様ノ手續ヲ以テ何様ノ處分致シ來候哉詳細至急申出ヘキ事

乙号東京上等裁判所ヨリ申出 明治十一年十二月十八日

下問全文記載ニ付界ス

右ノ場合ニ於テ被告甲介提供セシ處ノ千圓ノ受取書ハ自ラ相當ノ印紙ヲ貼用ノ上消印シタル者ニ付證券印稅規則第五則第十二條ニ依リ裁判上ノ證據ニ採用スト雖モ原告乙造取置キシ千圓ノ返リ證書ハ印紙貼用無之ニ付同規則第一則第二條ニ照シ取揚裁判難相成

モノ故原告乙造要求相立クサル旨裁決各各自印紙貼用セザリ。廉  
ハ檢事へ告發シテ其處分ニ附シ候儀ニ有之候此段上申仕候也

丙号東京上等裁判所へ達 明治十一年 十二月廿四日

過般下問ニ及ヒ候民事詞訟上證券印紙貼用規則ニ觸レタル者ノ審判  
手續ノ義ハ左ノ通相心得處分可致此旨相達候事

別紙原告乙造ノ如ク印紙貼用規則ニ觸ル者ハ直ニ其廉ヲ以テ處罰  
規則ノ通印紙貼用爲致該證書取揚ケ審理ヲ爲スヘキモノトス

○第十四号布告明治十年二月三日發

一證券印稅規則中賣買品ニ關スル證書類ハ諸帳簿調査ノ振合ニ準  
官員巡廻調査候儀可有之事

○第九十六号布告明治八年十二月廿日發

○第三節 訴訟用紙規則

第一條 凡訴訟ヲ生シ公裁ヲ仰カントスレハ此規則第九條中第一項

第二項第三項第四項ニ照準シ原被告人共裁判官ニ差出ス訴答及ヒ  
證書ノ寫等一切ノ書面ハ其類ノ紙ヲ用フヘキ事

但訴答等ノ表紙書式等ハ訴答文例ノ通タルヘキ事

第二條 訴答文例中原告人へ取ヘキ被告人住所書附並此書附ヲ得ル  
爲メ村役場ノ文通ハ第九條中第五項ノ紙ヲ用フヘキ事

第三條 訴訟中其事ニ關シ證據ニ爲サントスル原被告人互ノ文通モ  
第五項ノ紙ヲ用フヘシ若シ此紙ヲ用ヒサル者ハ裁判上證據ト

ルノ効ナキモノトスヘキ事

第四條 人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニ付官府ヨリ裁判官ニ差出ス  
書面モ全ク此規則ニ照シ紙ヲ用フヘキ事

第五條 以上ニ掲ケル紙ヲ用ヒサル書面ハ裁判官受理セザル事

○第廿五章印紙界紙○第三節訴訟用紙規則



金十圓	未滿	黃色野紙	定價一枚
米五石	未滿	黃色野紙	金二錢
雜穀十石	但一枚十二行一行十二字結以下皆同		
金十圓以上百圓	未滿	黃綠色野紙	同 金三錢
米五石以上五十石	未滿	橙黃色野紙	同 金四錢
雜穀十石以上百石	未滿	綠色野紙	同 金五錢
金百圓以上五百圓	未滿	黑色野紙	同 金六錢
米五十石以上二百五十石	未滿	青色野紙	同 金三錢二厘
雜穀百石以上五百石	未滿	紫色野紙	同 金二錢八厘
金五百圓以上千圓	未滿	紅色野紙	同 金二錢四厘
米二百五十石以上五百石	未滿		
雜穀五百石以上千石	以上		
金千圓			
米五百石			
雜穀千石			
第二項 人事ノ類			
第三項 土地並建物類			
第四項 雜事ノ類			
第十一條 裁許狀ハ其類ニ照準シ此野紙ヲ用フヘキ事			

第十二條 訴訟中裁判所ヨリ原被告人呼出コ用フル野紙員數ノ定價及ヒ原被告人ヘ下附スル裁許狀野紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳ヘ辨納スヘキ事

第十三條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用野紙ヲ販賣スル者ハ其品取上ケ販賣シタル野紙代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ買受ケタル野紙代ノ五十倍過料可申付申

第十四條 刑法ニ文明アルヲ以略ス但本文九十圓以内ノ過料ノ事第十五條 前條ニ掲クル犯人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺ニ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

○第七十三号布告明治九年五月十八日發

各地方ニ於テ訴訟用野紙賣切レ之カ爲メ出訴人出訴期限ノ盡ントスル件ハ尋常白紙ニ相認メ野紙賣切レ候旨ヲ添書シ出訴可致此旨布告

○第廿五章印紙界紙○第三節訴訟用野紙規則

候事

○第五十一号布告明治十五年十月廿七日發

○第四節 賣藥印紙稅規則 明治十六年一月一日ヨリ施行

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ於テ

左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄 印稅壹厘

一全 貳錢迄 全 貳厘

一全 三錢迄 全 三厘

一全 五錢迄 全 五厘

一全 拾錢迄 全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第三條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘 淡黑色 二厘 青色

三厘 黄色 五厘 茶褐色

壹錢 赭色 貳錢 綠色

三錢 濃青色 四錢 橙黄色

五錢 紫色 拾錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消

但印紙面ノ中心ヨリ他所ニ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可ヲ得テ賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上二百

圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上

○第廿五章印紙界紙○第四節賣藥印紙稅規則

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條

請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條

貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條

印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

○第二十四号大藏省布達明治十五年十一月十七日發

本年十月第五十一号布告賣藥印紙稅規則施行ニ付テハ賣藥營業者ニ於テ必ス印紙ヲ貼用スヘキ等ノ處該稅則施行以前既ニ請賣者ハ行商

者ニ渡シタル賣藥ハ此際ニ限リ請賣者又ハ行商者ニ於テ印紙ヲ貼用スルヲ得ヘシ

○第廿六章 酒造規則

○第四十号布告明治十三年九月廿七日發

酒造稅則

第壹章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出

酒造場壹ヶ年毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造

スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

清酒 濁酒 其他釀造

二類 蒸溜酒

燒酎 酒精 再溜酒 精 其他  
蒸溜酒 酒精 再溜酒 精 其他

○第廿六章 酒造稅則

十五年  
第十七号布  
告第二類



割註本文  
ノ通改ム

十五年六  
十一号布  
告第二條  
本文ノ通  
改正十六  
年十月一  
日施行

三類再製酒

銘酒味淋白酒等醸造蒸溜ノ酒類ヲ調和  
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如

酒造免許税

酒造場壹ヶ所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マデヲ以テ一期ト

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セズ

十五年六  
十一号布

告第四條

第二項第

三項各本

加文ノ通追

清酒 百石

濁酒 拾石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ  
以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關ス

ル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スルハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ  
書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨  
管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第廿六章 酒造規則

四百三

四百三

十五年第十七号布告  
第一期  
第二期  
細則  
書本文  
如更正

十五年第六十一号  
布告第十  
條第二項  
追加

第八條 免許税ハ鑑札ヲ申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ  
十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第壹期 四月三十日限  
三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限  
七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額並前納額

第三期 九月三十日限  
ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ

現石數ニ付納税スヘシ  
但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一

箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出

且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日マテニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總

テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和

スルモノモ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製  
第壹章 第二章 第二條  
中一類ノ酒ヲ

二類ニ變製スル類  
スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ付之ヲ納ム

ヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石

數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ但製成ノ上ハ第

十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳

○第廿六章 酒造税則

へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スルモノハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サルモノ及ヒ廢棄シタルモノハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ハ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒モト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申出其容量ノ検査ヲ受クヘシ但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もとチ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノチ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ハ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スチ許サス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒 搾リ 蒸溜 器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スル者ハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

十五年第  
十七号布  
告第二十  
一條但書  
追加  
十五年第  
六十一号  
布告第二  
十二條第  
二十三條  
本文ノ通  
改正

○第廿六章 酒造稅則

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタル者ハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フ

ヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石

數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘ

シ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許

鑑札ノ番号ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ諸器

械ニ沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數

ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但本文酒類并ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴ス

ヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ

之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與

シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ

金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ

相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

十五年第  
六十一号  
布告第三  
十一條第  
三十二條  
各本文ノ  
通改正

○第廿六章酒造稅則

十五年六月十一日  
第十三号  
告第三十  
四條以下  
悉ク改正  
追加

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル  
 造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條又ハ第二十條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七  
 條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ  
 處ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者  
 ハ貳圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ検査ヲ受ケザル者ハ三圓以上二拾圓以下ノ罰金  
 ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項  
 ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒  
 収ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

十五年第  
六十一号  
布告附則  
各本文ノ  
追加改正

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ニ犯シタル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加  
 重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニ  
 アラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯  
 シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造税則附則

第一條 自家用料ノ酒類 飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シテ製造スル者ハ  
 及ヒ其他ノ用ニ供スルモノヲ製造スル者ハ  
 管廳ニ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造尚一石(二種以上製  
 造スル者ハ  
 其總石數)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユルハ總テ本則ニ從フヘシ

○第廿六章酒造税則

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居スル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スルモノハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○第廿七章 醬麴營業稅則

○第四十一号布告明治十三年九月廿七日發  
醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴ノ醸造酒類ヲ製造シテ營業セシト欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醬麴營業稅 金五十圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

○第廿七章 醬麴營業稅則

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管  
廳へ届出へシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナ  
ク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳へ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ  
書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ  
願出テ再渡又ハ書換テ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札へ免許鑑札  
ノ番号ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

十五年六  
十二布告  
第五條第  
二項追加

十五年六  
十二号布  
告第十二  
條ヨリ十  
五條マテ  
追加

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅  
ニ倍ノ金額ヲ徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記  
ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラズ  
五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲  
シ又ハ酒類除ノ醬麴ヲ製造スルヲ許サス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處  
シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代  
價ヲ追徴スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重

○第廿七章 醬麴營業稅則

數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニア  
ラス

第十五條 稽勸營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シ  
タル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○第廿八章 烟草

○第六十三号布告明治十五年十二月廿七日發 明治十六年七月  
一日ヨリ施行

烟草稅則

第一章 烟草營業

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第二條 刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀

ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條 未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ニ賣渡シ及製

造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者ヲ烟草仲買人ト

ス

第四條 製造烟草ヲ自用者ニ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但製造仲買

及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受クヘシ

第六條 烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ス所

ハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第七條 烟草營業者ハ鑑札ヲ受クル所左ノ通鑑札料ヲ納ムヘシ

○第廿八章烟草規則



烟草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

烟草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

烟草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換テ請フヘシ但前條ノ通鑑札料ヲ納ムヘシ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲ヌコトヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ムヘシ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ムヘシ

烟草製造營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草仲買營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草小賣營業稅 壹個年 金五圓

第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受テ節其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙

包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フヘシ 卸賣定價百匁ニ

量目 印稅ニ付二十五錢 同 卸賣定價百匁以上 同 卸賣定價百匁以上ノ分

五匁 未滿ノ分 三厘 四厘

十匁 四厘 六厘 八厘

十五匁 六厘 九厘 一錢二厘

廿匁 八厘 一錢二厘 一錢六厘

○第廿八章 烟草規則

三十匁 一錢二厘 一錢八厘 二錢四厘  
 五十匁 二錢 三錢 四錢  
 百匁 四錢 六錢 八錢

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ニカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印スヘシ

第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣コ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束スヘシ

第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣コ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條 外國ニ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ニ下付スヘシ

第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

帶印紙 黑色	一枚	二厘
同 淡赭色	同	三厘
同 黃色	同	四厘
同 赭色	同	六厘
同 萌黃色	同	八厘
同 淡青色	同	九厘
同 茶褐色	同	一錢二厘
同 淡紅色	同	一錢六厘
同 桔梗色	同	一錢八厘
同 橙黃色	同	二錢
同 老綠色	同	二錢四厘

同 濃青色 同 三錢

同 黃綠色 同 四錢

同 紫色 同 六錢

同 赤色 同 八錢

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フヘシ

第五章 雜則

第二十一條 刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

第二十二條 烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ

以テ定ムル所ニ從フヘシ

烟草製造人

烟草製造帳

烟草仲買人

烟草買入帳 烟草賣渡帳

烟草小賣人

烟草買入帳

第二十四條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示スヘシ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第二十六條 烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ

帳簿ニ登記スヘシ

第二十七條 烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高并印紙買入高及六月三十日ノ烟草并印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツヘシ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツヘシ

第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ但書式ハ亦違テ以テ定ムル所ニ從フヘシ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スルヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同

第六章 検査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應ジテ之ヲ示スヘシ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱税ヲ謀リ若クハ脱税ノ便ヲ與ヘル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得ズシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ

貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯セタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第廿九章 藥品

○第七号布告明治十年一月二十日發

○第一節 賣藥規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製・効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ依

十年八月十  
九号布告  
第一條本  
改ノ如  
正

十七号布  
告第二條  
本文ノ如  
ク改正  
十五年五  
月二号布  
告第二條  
但書追加  
但十六年  
一月一日  
ヨリ施行  
ス  
十一年二  
十七号布  
告第三條  
改ノ如  
正  
十年八  
九号十一  
年廿七号  
布告等  
以テ第五  
條本文ノ  
如ク改正

籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スルハ其箇所

毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スル

モノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セシト欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ納返シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セシト欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍

氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

○第廿九章藥品○第一節賣藥規則

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ揚クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルキハ其由テ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スルキハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願ヒ受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スルキハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ  
第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノトアル時ハ直チニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルトアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子トモ其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタルキハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スルキハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ノ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札ヲ上納スヘシ

十年八十  
九号布告  
第十四條  
本文ノ如  
ク改正

十四年二

○第廿九章藥品○第一節賣藥規則

十六号布  
告册十六  
條本文ノ  
如ク改正

十五年第  
五十二号  
布告第十  
六條但書  
追加但書  
十六年一  
月一日  
施行

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年

金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚

金貳拾錢

但第三條但書ニ依リ免跡鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文税金  
並ニ鑑札料ヲ納ムヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其

鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後  
半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納  
スヘシ

第十九條 納金ハ六月以前免跡ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業  
ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ  
但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金

ヲ納ムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者  
及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セ  
シムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付キ五圓ノ罰金ヲ科スヘシ  
第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借り受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ  
請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ  
其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ  
第二十二條 免許ヲ受スルテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又  
ハ許可ヲ經スルテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札  
ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金  
ヲ科スヘシ

○第廿九章藥品ノ第一節賣藥取扱規則



第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者。又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ  
藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者。ハ其製藥及  
ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ  
科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者  
ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ  
罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其  
賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘ  
シ  
第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アルキハ事實取糺ノ上  
相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○第壹号布告明治十三年一月十七日發

○第二節 藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意藥トシ其  
性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘ

キモノヲ第二類毒藥トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ  
因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇藥トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試  
験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルト  
キハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ  
混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採収ノ際他物ハ之ヲ藥用トシテ  
其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フ  
販賣スヘカラズ

○第廿九章藥品○第二節藥品取扱規則

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルハ最寄司藥場ニ請  
ヒ無費ニテ其試驗ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供ス  
ニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫  
師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ  
住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或  
ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ点檢ニ供スヘシ且本條ノ手續  
ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノハ一切  
交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ニ必

ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書ス  
ヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスコトヲ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥  
品ヲ小賣若クハ授與スルキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉  
封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戾シ又ハ贗品ニ故意ニ他ノ物品ヲ本品  
ニ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ欺品ニ混合シテ其容量重量  
擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ、潮解シ若クハ黴醜ヲ  
生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ販賣スルモノハ其贗  
ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ヲ云フ、販賣スルモノハ其贗  
敗品ヲ没入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ壹月以上壹年半  
以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戾スルモノ  
ハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳拾五日以下ノ懲  
役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍以下ノ罰  
ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類 藥注意表

- 印度大麻葉 及其製劑
- 麥奴 及其製劑
- 乳酸鉄
- 吐根
- 礮砂精 (アンモニア水)
- カラハル豆 及其製劑
- ヨヂウム
- 沃土鉄舍利別
- 沃土加里
- 第一沃土汞 (黃色沃汞)
- 葛葉 并根 及其製劑
- 番木鱉子 及其製劑
- ヘアシチ
- 吐酒石
- ヂキタリス葉 及其製劑
- 肝油

第一コロール汞 (耳汞) 第二コロール汞 (鼻汞) 猛汞

- 炭酸アンモニア (礮砂華)
- 蔓陀羅華 及其製劑
- 芫菁 (斑猫)
- コロラルヒドレート
- 阿片製劑
- 醋酸アンモニア水 (ミンチレンソ精)
- カリシール酸 及 鹽類
- 規尼涅鹽類
- 硝酸銀
- 核酸サリウム
- 老利爾結兒私水 并 苦扁桃水
- 蒺刺巴脂 并 球根 及其製劑
- コロ、フォルム
- 搭魯失屈謨實 及其製劑
- アトロヒチ鹽類
- サントニーチ
- 薩爾椒根
- 機那皮
- 綿馬 及其製劑
- 失鳩答草 及其製劑
- 臭素加里 (フロイウムカリウ)
- 臭素剝篤亞私

○第廿九章藥品○第二節藥品取扱規則

エーテル(アエーテル)

鹽基性硝酸蒼鉛

ヒヨス葉及其製劑

蓖麻子油

莫爾比涅鹽類

水素還元鉄

第二類毒藥表

磷

カンタリチーチ

クラーレ(矢毒ウラ)

亞砒酸(異名 白砒石、礬石、アルセニク)

其製劑及砒抱合物(雜冠、雄黃、雌黃ノ類)

揮發苦扁桃油

有毒性アルカロイト並其鹽類

ニコチチ、ヂキタリチ、ナルセーチ、ヂエラトリチ、ブルセチ、ニコチチ、コデ  
ーチ、アトロヒチ、アニコチチ、エメチチ、ヒヨミアミチ、モルヒチ、ストリ  
キニチ等

猛劇汞劑

白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸、亞酸化汞、青酸汞、生々乳

青酸及其製劑

第三類劇藥表

印度大麻葉及其製劑 食菅葉並根及其製劑

番木鱉及其製劑 巴豆及巴豆油

麥奴及其製劑 ポドヒリオン

ヘルンボル根及其製劑 吐根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑 毒蒿苳及其製劑

藤黃 チキタリス葉及其製劑

硫酸 カラハル豆及其製劑

○第廿九章藥品 ○第二節藥品取扱規則

苛性加里 (腐蝕加里)

苛性曹達 (腐蝕曹達)

芥子油及芥子精

甘汞及輕粉 汞灰散 藍丸

ヨヂウム及其製劑

沃土加里

ヨキウム鉄

ヨードホルミウム

雙鴉菊球根 (烏頭) 及其製劑 老利爾結兒私水並苦扁桃水

ヱラトリ根

過酸滿俺酸加里及曹達

蒺刺巴脂並球根及其製劑 蔓陀羅華葉及其製劑

芫菁 (斑猫) 及其製劑

ケレチソート

プロミウム [臭素]

コロウム酸

コルシクム實並根及其製劑 コロント實及其製劑

コロ、フォルム (迷朦水)

コロトニコララルヒドレート

コロラルヒドレート

コロゲイン

コロ、ム酸加里及重コロ、ム酸加里 阿片及其製劑

亞鉛華其他亞鉛製劑 サピナ葉及其製劑

醋酸鉛 鉛糖 其他鉛製劑 サントコト子

次醋酸錫其他銅製劑 [酸化銅] 硝石精

硝酸銀 失鳩答葉及其製劑

臭素加里 鹽酸 [海鹽精] 鹽化水素酸

鹽化金ナトリウム 鹽酸重土其他重土製劑

鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑 エウホルビウム及其製劑

ヒヨス葉及其製劑 石炭酸

端香皮及其製劑 スカンモコ脂

○第貳拾壹号布告明治十一年八月九日發

○第三節 藥用阿片賣買並製造規則

○第廿九章藥品 ○第三節藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後テ各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ

但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下クヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目壹匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ビテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場同藥場ナキ地方廳ニ申立テ其拂下ケテ請フヘシ但欲乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フヘシ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スル時ハ其量目並ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目四十匁ヲ超ヘカラス

○第廿九章藥品○第三節藥用阿片賣買並製造規則

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スル  
ト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ隘書ヲ  
以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖  
並ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買  
入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其  
管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨  
時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必スシモ前條明細表ヲ  
差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供

スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採  
收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シ  
タル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上  
ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルハ地方廳ヨリ  
其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ  
相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ  
該藥主用ノ性分即チモルヒ子ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ買上ケ及ヒ拂下ケル所ノ阿片ハ百分中ニモルヒ

第十六分以土十一分至...含有スル者ニ限ルル...

第十六條 此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○第三十章 衛生

○第三拾四号 明治十三年七月九日發

○第一節 傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病ハ虎列刺腸室扶私赤痢實布埤利亞發疹室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

十三年五十四号布告△印以下追加

十三年第五十四号布告第三

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遲クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳ニ届出ヘシ△地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ且其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第四條 明治十三年第五十四号布告ニ依リ削除

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳

○第三十章 衛生 ○第一節 傳染病豫防規則



染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ  
第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難ト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムルヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ  
但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサル間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

十五年第  
四十七布  
告一第八  
條中病名  
票貼付ノ  
儀當分ニ  
シ施行セ  
ス

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道、及ヒ圃園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來

ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若シハ死者アリキハ此規則ニ從テ處分  
スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ

其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適ノ當人員

ヲ撰ビ検査委員トシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルハ

ハ總テ検査委任ニ届ケ出スヘシ但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之

ヲ管内ニ告示シ内務省ヘ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ

差止ムルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若シハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハ

シ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷ヲ得ヘキモノト見認ルトキハ地

十五年第  
四十八号  
布告第十  
四條本文  
ノ追加

十四年第  
五十八号  
布告第十

五條第二  
項及ヒ但  
書追加

方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶クシムルノ處分ヲ爲スヲ得

但要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適

用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用ス

ヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及

ヒ之ニ汚穢ナル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹空扶私病

○第三十章衛生○第一節傳染病豫防規則

十三年第  
五十四号  
布告第九  
條本文ノ  
如ク改正

十五年第  
四十八号  
布告第二  
十一條改  
正本文更  
正ノ通リ

第十九條 發疹室扶私病者アレキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘 瘡 病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰 則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓

以內ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

○第三十一号布告明治十五年六月廿三日發

○第二節 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ハ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

○第三十章衛生○第二節虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 四百五十五

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船  
 舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル  
 場所ニ碇泊セシム可シ  
 該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト  
 認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ縁故人ノ望アル地方官所定  
 ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スベシ  
 前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施  
 シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷  
 ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ  
 他船ト交通シ及ヒ荷積ヲ陸揚ケスルノ許可ヲ與フ可シ  
 第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者  
 ハ刑法ニ依テ處分スベシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指  
 定ス可シ

○甲第十六号内務省布達明治九年五月十八日發

○第三節 天然痘豫防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事  
 故アリテ此期ニ後ルハモノハ其次第ヲ醫務取締若クハ區戶長ニ届  
 シヘシ  
 但初種ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ  
 第二條 種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ受取り置  
 クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ受取  
 リ置クヘシ

○第三十章衛生○第三節天然痘豫防規則

第三條 醫務取締若クハ區戶長ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スルコト能ハサルモノ等夫々検査シ地方廳ニ届ケ出ツヘ

第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若クハ區戶長ノ届書ヲ以テ半年分ツ、取纏メ毎年三月九月内務省ニ出スヘ

第五條 送籍ノ時ハ必ス第二條ニ掲クシ醫師ノ證書ヲ所持スヘ但滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ證據アルモノハ此限コアラズ

第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ官廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届出ツ可

第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齢期限ヲ問ハス普ク接種スヘ

但未決既決監獄繫留ノ囚徒ハ本條ニ準シ官ヨリ接種セシムヘ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ニ若クハ他人ヲ蠱惑スル等ノ者ハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科スヘ

○第三十一章 裁判所呼出遅參不參罰令

○第五号布告明治十年一月十七日

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタル者疾病等ノ事故アリテ遅參又ハ不參スル時ハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ル歟又ハ無届ニテ遅參不參スル時ハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰ヲ科スヘ

○第三十二章 富籤賣買ノ幫助者及購買者等罰令

○第二十五号布告明治十五年五月廿四日

○第卅一章裁判所呼出遅參不參罰令

明治元年十二月廿三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ム

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ付加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ付加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條及第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ルモノハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ依テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

○第三十三章

○第十七号布告明治九年二月十九日發

度量衡改定規則

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來三月十五日

○第三十章富籤賣買ノ幫助者及購買者等罰令○第三十章度量衡改定規則 四百六十一

ヨリ十二月廿五日マテニ右收所へ差出シ検査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ズ時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ検査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下戻スヘシ

第三條 製作所賣捌所官諦ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ自盛致シ枴ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枴ノ縁鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條 舊器共検査アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ枴ノ縁鉄弦鉄等ヲ取離シ古鏡トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

○第三十四章

○第九号布告明治十六年三月十日發

清國及朝鮮國在留日本人取締規則

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スルキハ一年以上三年以下在留スルヲ禁止スヘシ但其情狀ニ因リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

○第三十四章清國及朝鮮國在留日本人取締規則

第二條 在留ヲ禁止セラル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ルキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條 保証金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スルキハ領事ハ其保証金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第四條 退去期限若シハ猶豫期限内ニ退去セサル者及ヒ禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

現行法律規則大成畢

明治十六年四月五日出版御届

同 年五月 刻 成

定價金壹圓

編輯人

大坂府士族

大 出 憲 之

府下和泉國堺區南旅籠町東  
三丁五拾八番地寄留

出版人

大坂府平民

岡 島 眞 七

東區本町四丁目五十九番地

印刷

同 支 店

岡 島 活 版 所

東區本町四丁目六十番地

發兌人

諸新聞雜誌  
賣捌所

岡 島 支 店

東區備後町四丁目三番地





大阪上等裁判所藏版

一 佛國契約篇講義

四十三册合卷三册 定價金三圓五十錢

內譯「アルベルト、リッマン」氏講述十七册

此三書ハ大阪上等裁判所顧問教師「アルペー」氏前教師「リッマン」氏ニ繼ギ

該裁判所ニ於テ講述スル所ニ係リ委詳丁寧精

チ拆キ微チ探リ能ク法理ノ立妙ヲ闡明シ律意

ノ蘊奧ヲ探發ス且ツ講師ノ講大ニ所チ直譯筆

記シ敢テ粉粧文飾ヲ須ヒザルヲ以テ之ヲ直譯筆

セハ直ニ講師ヲ見テ親ク其講義ヲ聽クカ如ク

今敝館ニ於テ印刷發賣ス江湖ノ諸君敝館若ク

ハ最寄書林ニ就テ購求アラソク乞フ

「ペー」氏講述

一 對問筆記 全一册 定價金十二錢

判事淺井佐一郎閱 定價金十二錢

多治比裕雄 編輯

一 刑法新令類輯初篇 全壹册 定價金五十錢

宗勝三郎編輯

一 陸海軍刑法一般對比 全一册 定價金五十錢

一 同治罪手續 全一册 定價金八錢

一 刑法附則 全一册 定價金八錢

淺井魁編輯

刑事 審判手續 全壹册洋本綴リ 定價金七十五錢

本書ハ刑法治罪法ヲ實施スルノ細則ニシテ或

ハ新法ニ關涉スル布告及ヒ達ノ樞要ナルモノ

ヲモ撮録シテ漏サス誠ニ當路者ノ一日モ坐右

ヲ離ス可カラサルハ勿論公衆ト雖モ民權ヲ更

張スルノ必要ニシテ即今陸續發行スルノ不完

全ナル未書ノ類ニ非サレハ請フ江湖ノ諸君購

求アラソク謹白

大橋濟注釋

一 佛國治罪法對比注釋 全壹册定價 金一圓廿五錢

一 佛國刑法對比合卷 全一册 定價金八十五錢

福岡廣業著述

刑名 刑法解釋 全一册定價 金壹圓廿五錢

山内裕朗編輯

一 治罪要錄 全一册定價 金一圓三十錢

一 陸軍刑法合卷 全一册 定價金十一錢

大出憲之編輯

一 現行法律規則大成

活字版洋本綴 全壹册金壹圓

宗勝三郎編輯

一 日本刑法特法備攷

定價 金六十錢

司法省出仕福岡廣業著

一 追告刑法注釋大全 近刻一册

全 合卷 刑法注釋大全 近刻一册

一 全治罪法注釋大全 近刻一册

刑法治罪法ノ注釋クハ世間其數枚舉ニ暇ア

ラフ然ルニ開々隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス故

コ今般其缺ヲ補ヒ加之上欄ニ刑法治罪法布

告以降本年二月マテノ布告布達及ヒ司法省

諸達刑法治罪法ニ關スル同指令内訓等ヲ舉

ケ本條ト共ニ注釋ヲ加ヘ讀ニ難キ文字ニハ

傍訓ヲ施シ一目瞭然官民ナシテ疑念ヲ氷解

セシムル良書ナリ

一 改正監獄則 全一册 定價金十一錢

大政官公版雕刻

一 治罪法合卷 全一册 定價金卅五錢

一 土地地券例規全書 全壹册 定價金壹圓

一 同續編十四年分全一册 定價金五十錢

一 同三編十五年分全壹册 定價金六十五錢

此書ハ土地ニ管スル官省局布告布達及府縣

ノ同指令ヲ盡ク編纂シ增加ハ追録シ廢除ハ

背キ許多ノ規則ヲ諸記スルノ苦シミナク一

掃瞭然其簡便獨リ當務者ノ緊要ノミナラ

ス土地ニ所有スル者座石ニ飲可ラサル必用

ノ書ナリ

高木周次編纂

一 現司法郡區戶長心得 全壹册 定價金廿五錢

一 行警察 全壹册 定價金八十錢

橫田忠三郎編輯

一 現地方財政法規 全壹册 定價金壹圓

中山克巳纂譯

一 萬國政典 全壹册 定價金四十錢

大阪裁判所藏版

一 諸罰則概表 全一册 定價金十一錢

判事補淺井佐一郎  
增補 民事 覽 要  
改正

甲篇全一冊  
定價二圓五十錢

本篇ハ維新革命ヨリ明治十二年ニ至リ發令セル民事詞訟ニ樞要ナル官令ヲ撮録合輯セシモノナリ其類ヲ分ツテ四十一章ト爲シ逐條要旨ヲ採摘シ卷首ニ掲ケテ數ナ附スルヲ以テ尤細閱ニ便ナリ而テ既ニ改正成ル條件ハ原文ヲ略シ要領及ヒ發令年月日號ヲ記シ以テ其沿革ヲ知ラシム然レハ證券印稅受人證人辨償規則ノ如キ當時ノ定約存スルモノ之レヲ載録セリ或ハ卷中照合ス可キモノハ其條件ヲ記スルニヨリ一目ヲ且亦沿革ヲ知ル可シ荷モ訴訟ニ關スルノ法令載セテ漏サス實ニ民事緊要ノ書ト爲ス諸君幸ニ購求アラソトナク

- 一 同 二 版 十三年分 全壹冊 定價五十錢
- 一 同 三 版 十四年分 全壹冊 定價三十五錢
- 一 同 四 版 十五年分 定價金五十錢
- 一 同 乙 篇 增補同指 近 刻

河ノ毛澤地書林ハ差出候間其御最寄ニテ購求之程奉願上候

佐藤茂一編著  
日本憲法論纂  
西洋仕立全一冊  
定價金六十五錢

福岡廣業註解  
改正 爲替手形 條例註解 全壹冊  
增補 約束手形 條例註解 定價金十五錢

福岡廣業註解  
明治十五年 請願規則註解 全壹冊  
第五拾八号公布 定價八錢

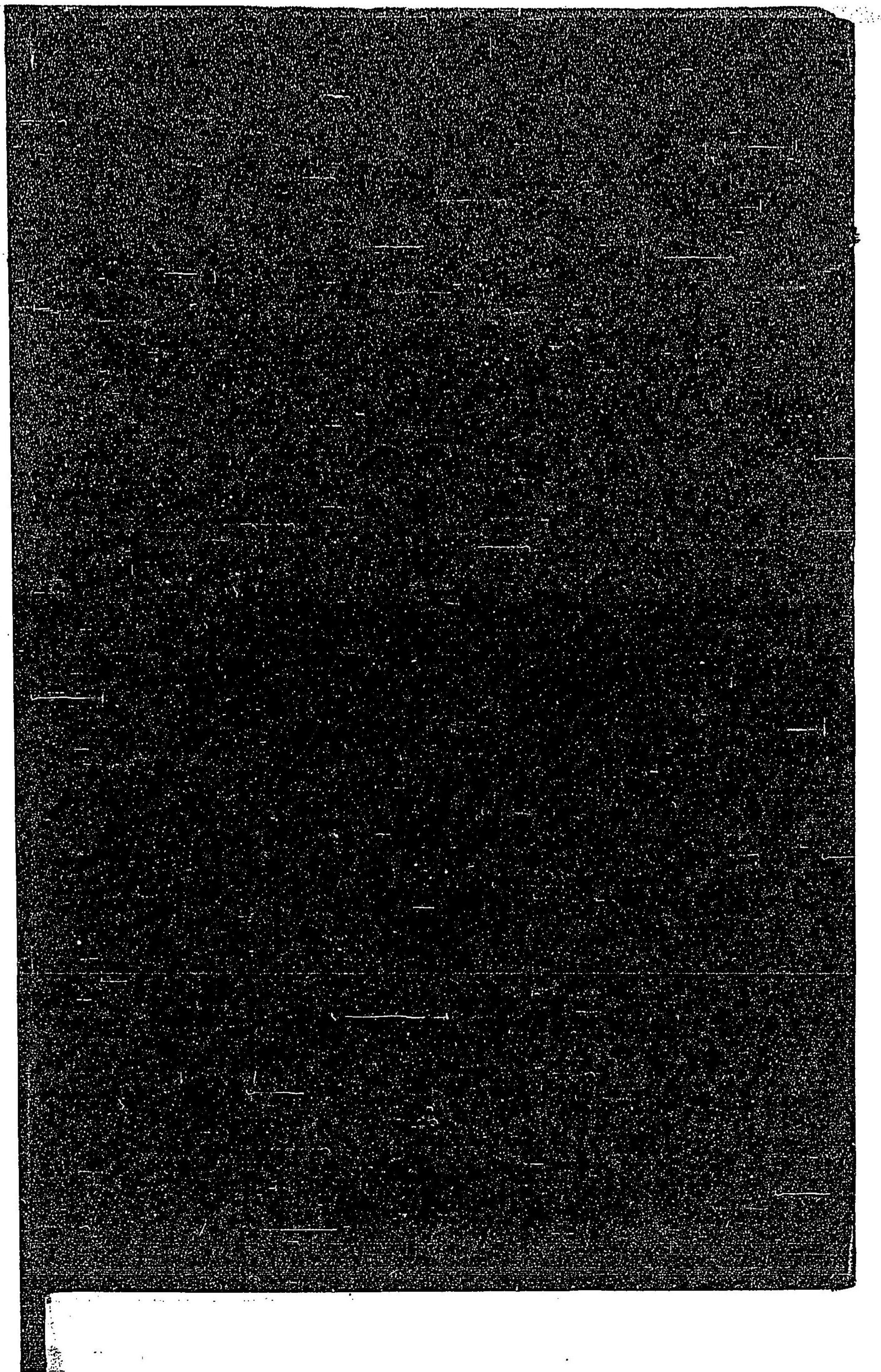
福岡廣業註解  
改正 郵便條例註解 全壹冊  
定價金廿五錢

福岡廣業註解  
一 監獄 則 註 解 洋本綴 全一冊

中島信行君序 窪田榮編纂  
一 故米國 ガルヒルド 公署傳 全壹冊  
定價金三十錢  
附刺客ギット氏裁判始末

草間時福序  
喜多川林之丞編輯  
一 國家主權論纂 上下全二冊壹冊  
定價金六十錢

31  
33



31  
33

031121-000-9

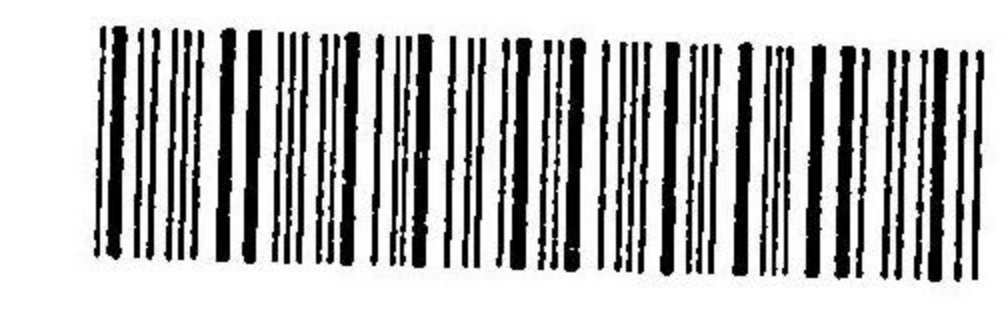
CZ-711-0215

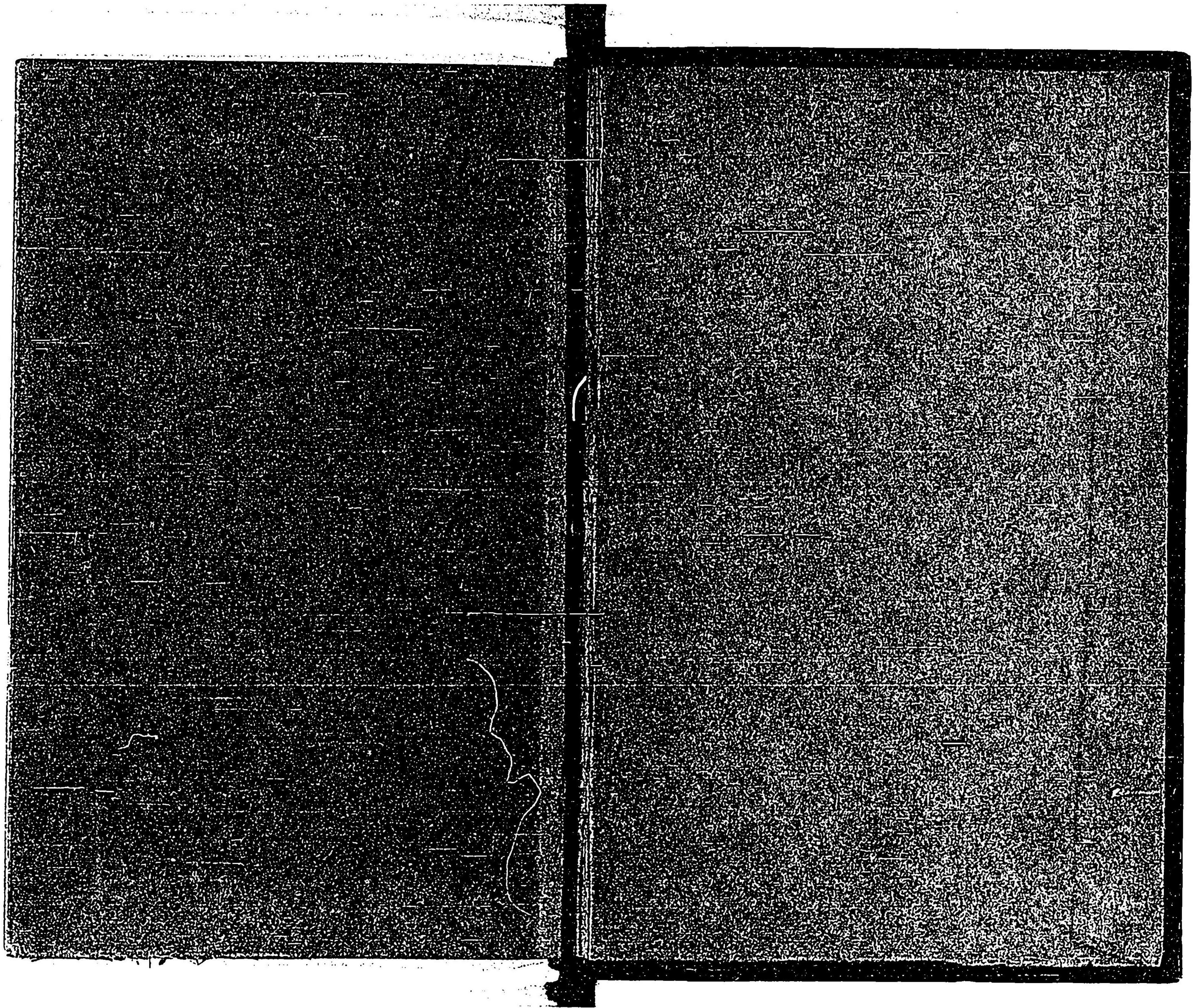
法律規則大成

大出 憲之 / 編

M16

BBC-0944





第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口証文等  
ハ都テ印紙界紙ヲ用フルコト及ハサル事

第六條 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等へ貢金其他官金相預  
ケ候節預リ金証文並ニ預リ金通帳ハ印紙界紙ヲ用フルコト及ハサル  
事

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

第一類 諸帳簿

一金錢判取帳 一質物通帳

一金錢當坐預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上二百圓未滿ハ 印 稅 一 錢  
同斷金高貳百圓以上三百圓未滿ハ 同 二 錢  
同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ 同 三 錢  
右以上幾許ノ高ニ至ルニ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第二類 諸帳簿

一質物臺帳

一金錢一時<sup>借</sup>通帳

一諸品損料帳

一商賣物當坐<sup>借</sup>通帳

一金錢預リ通帳 但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上

印 稅 五 錢

同斷金高貳百圓以上

同 十 錢

同斷金高未滿ハ

○第廿五章印紙界紙○第二節證券印稅規則